

問題 1-2 次の文章を読んで、後の問にこたえなさい。

ゴジュウカラという鳥を知っていますか？

大きさはスズメくらいで色は少しブルーがかったグレー、お腹のあたりは白。木の幹に頭を下して垂直に止まることができるかわいらしい小鳥です。そんな珍しい鳥など見たことないと思う方もいるかもしれませんが、実は普通に街中にもいます。特に冬場は森に木の実などが少なくなっている街の方に出てくるので見かける機会が多くなります。

冬に街中で見られるのはゴジュウカラ以外にもたくさんいます。シジュウカラ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラなどは同じくスズメくらいの大きさの野鳥です。ぬいぐるみで有名になったエナガもそうです。少し大きめだとシメがいますし、それよりさらに大きいとヒヨドリやツグミなどもよく見かけます。

それではどうして、多くの方が、普段はこれらの鳥たちに気がつかないのでしょうか？

鳥たちが人々の生活の周辺にいないからではありません。先ほど述べたように、鳥たちは街中にも結構の種類がいて生活しているのです。

ではなぜ見かけることが少ないのか・・・それはおそらく私たち人間側の認識によるものなのでしょう。私たちは普段見かける鳥を、カラス・ハト・スズメくらいにしか認識していません。簡単に言うと大きくて黒い鳥、それよりは小さくてポツポツと鳴く鳥、そして小さな茶色い鳥。だいたいこのようなオオザッパ(ア)な認識で鳥を区別しているのです、もし違う鳥を目がとらえていても、この三種類のどれかに認識してしまっているでしょう。

こうしたことはいつでも、また世界中のどこでも起きていることです。たとえば未開の地のある村の人は、飛行機やヘリコプターやドローンの存在を知りません。だから、空を飛ぶものを認識する言葉が一種類しかないのです。飛行機もドローンも鳥もトンボも同じものとして捉えるので同じ言葉なのです。

スマホに詳しくて最新機種にすぐに買い替えるような人なら、他人のスマホをチラッと見ただけでそれがアップル社のものなのか、アンドロイド系なのか区別できるでしょうし、さらに数年前の機種なのか今年でたばかりのものなのかわかるでしょう。しかし、スマホを所持していない高齢者からみたら、それらの区別はずかずに全部単なる携帯電話にすぎません。

こうした認識の違いは日常生活の中でヒンイパンに遭遇します。そして話し相手とその違いに大きな隔たりがある場合には、それを埋めることは非常に難しいものです。

たとえば、保護者と古文の勉強の話になった時に「うちの子、古文が全然なんです」が単語を二百くらい覚えちゃえばなんとかなりますよね」なんて言われることもあります。そうした保護者に対して、現在の古文に必要な知識、勉強のやり方、共通テストの傾向と対策などを説明しても、なかなか伝わりません。保護者たちの入試体験は二十年以上も前。現在は日々の仕事などに忙しく、勉強についてアップデートされていないわけですから、現在の入試対策を説明してもなかなか伝わらないのも当然かもしれません。

(宇古水伊 舞「ぼくはバツハが得意じゃない」より)

問一 次の選択肢のうち、本文と合っているものはどれか。

- 1 筆者は多くの人が鳥を三種類しか認識できないのはよくないと思っている。
- 2 物事を認識すること言葉には関係性がある。
- 3 若い人はスマホの機種に詳しいが、高齢者は詳しくない。
- 4 未開の地の人々は物事を認識する能力が高くない。

問二 この文章で筆者の主張は次の選択肢のうちどれか。

- 1 世界の未開の地の人々の中には、飛行機やドローンなどを認識していない人もいるので、私たち先進国の人々はそうした未開の地の人をもっと教育していくべきである。
- 2 多くの人は周囲に住んでいる鳥たちを三種類にしか認識していないので、普段からもっと身近なものに気を配り、より多くの鳥を認識できるようにしていく方が良い。
- 3 人と人との間には認識のズレがあるのが当たり前であり、しかもそうしたズレを越えて理解し合うことには困難が伴うものである。
- 4 古文の勉強内容や勉強方法、入試対策などは昔とはかなり変わってきているので、受験生の保護者も時代に合わせてアップデートをしていくことが重要である。

問三 傍線部の漢字と同じ漢字の熟語を選択肢から選べ。

- ア オオザツパ
- (1) 全体をフカンしてみる。
 - (2) ハランバンジョウの人生を送る。
 - (3) 隅から隅までハアクする。
 - (4) ハキュウコウカで行き渡る。

- イ ヒンバン
- (1) この単語はテストでヒンシュツだ。
 - (2) あの教師はセイヒンな人物だ。
 - (3) 戦いに敗れてヒンシの状態だ。
 - (4) どちらにするかテンビンにかける。